

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第4週の発生動向

トピックス

・**インフルエンザ(定点把握の対象となる疾患)**の第4週(1/25~1/31)の定点当たりの報告数は19.0と、今シーズン初めて流行注意報基準値(10.0)を上まわりました。昨シーズンと比較して4週遅れです。県内ではA/H3型、A/H1pdm09型、B型(山形系統、ビクトリア系統)が検出されています。詳細後述。

全数報告の感染症(4週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 4 例。3 類感染症：報告なし。
4 類感染症：報告なし。5 類感染症：後天性免疫不全症候群 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型、病名	症状等
2類	結核	宮崎市	30 歳代	男	肺結核	症状なし
			90 歳代	女	肺結核	痰、発熱、呼吸困難
		延岡	80 歳代	男	肺結核	咳、痰、発熱
		日南	90 歳代	女	肺結核	症状なし
5類	後天性免疫不全症候群	宮崎市	50 歳代	男	無症候性キャリア	—

定点把握の対象となる5類感染症

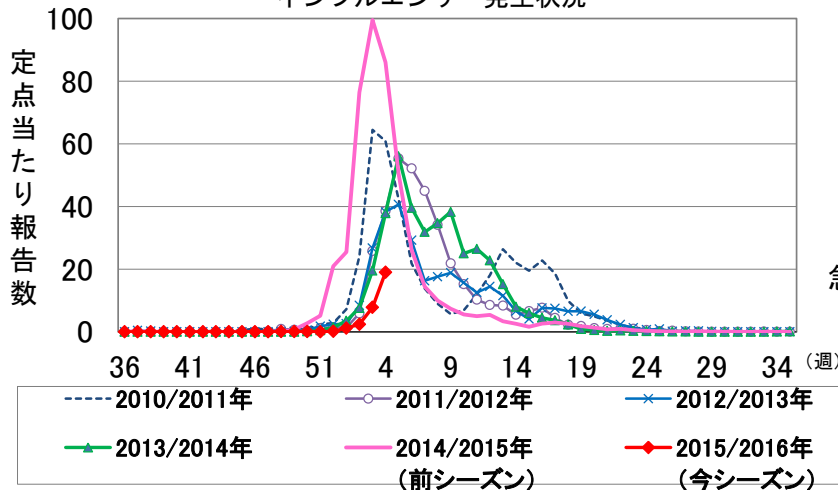
・定点医療機関からの報告総数は1,918人(定点当たり46.0)で、前週比137%と増加した。前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症と水痘であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【インフルエンザ】

・報告数は1,121人(19.0)で、前週比243%と大幅に増加した。小林(29.8)、都城(29.3)、日向(20.7)保健所からの報告が多く、年齢別では5歳未満が全体の16%、5-9歳が41%、10-14歳が21%、15-19歳が3%、20-59歳が16%、60歳以上が3%を占めた。

インフルエンザ 発生状況



《前週との比較》



定点あたり報告数

※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

保健所別インフルエンザ
警報・注意報レベル状況



3週(県全体 7.8)

4週(県全体 19.0)

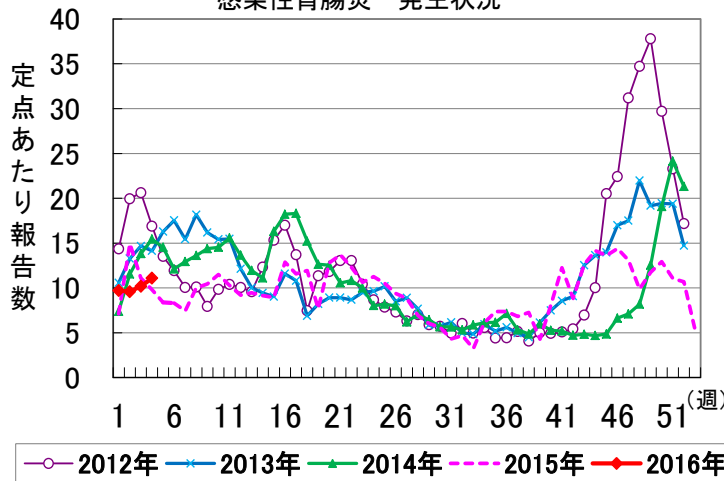
【感染性胃腸炎】

・報告数は399人(11.1)で、前週比109%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(14.2)の約0.8倍であった。日南(24.0)保健所からの報告が多く、年齢別では1~3歳が全体の約4割を占めた。

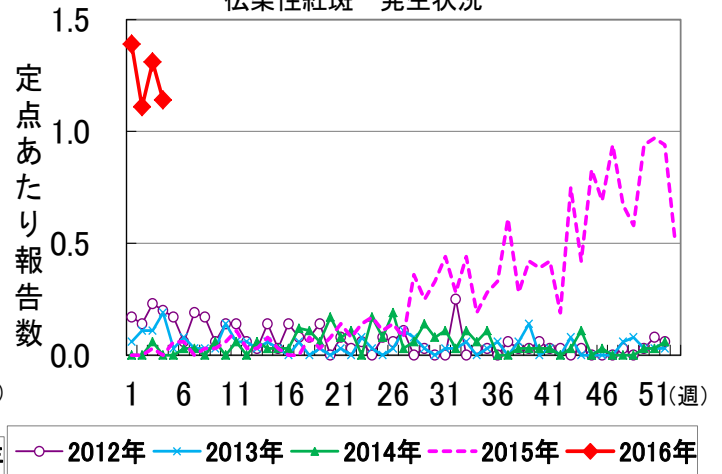
【伝染性紅斑】

・報告数は41人(1.1)で、前週比87%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値*(0.30)の約3.8倍であった。宮崎市(2.1)保健所からの報告が多く、年齢別では5歳と9歳がそれぞれ全体の約2割を占めた。
* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

感染性胃腸炎 発生状況



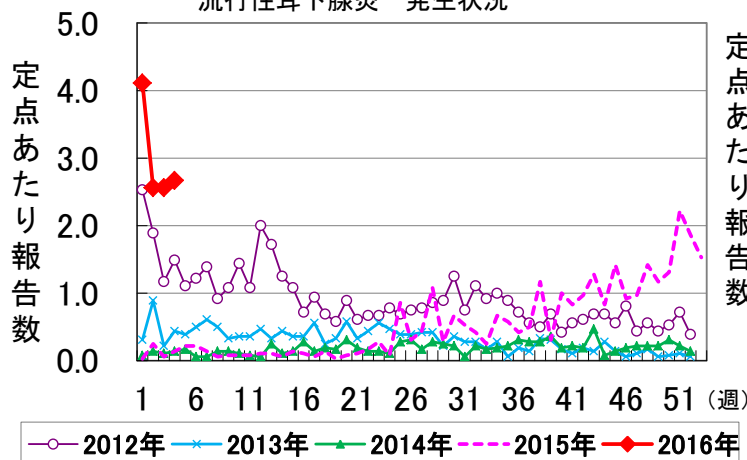
伝染性紅斑 発生状況



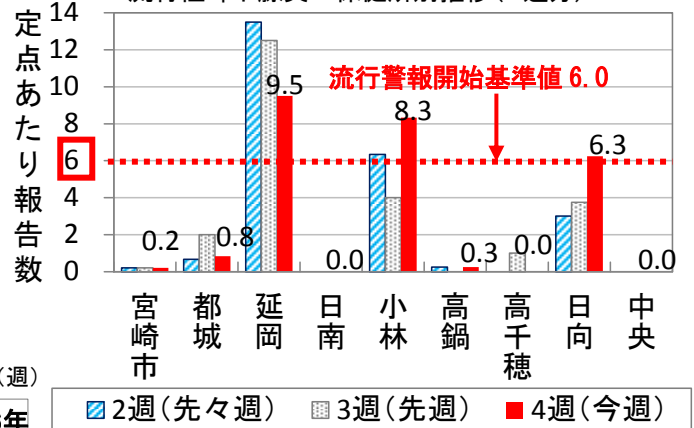
【流行性耳下腺炎】

・報告数は96人(2.7)で、前週比104%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点あたり平均値*(0.74)の約3.6倍であった。延岡(9.5)、小林(8.3)、日向(6.3)保健所からの報告が多く、年齢別では、5~7歳が全体の約半数を占めた。

流行性耳下腺炎 発生状況



流行性耳下腺炎 保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★

○無菌性髄膜炎：都城保健所から1例報告があった。

0～4歳で、咽頭ぬぐい液からRSウイルスが検出された。

○マイコプラズマ肺炎：宮崎市保健所から3例、日南保健所から1例報告があった。0～4歳が1例、5～9歳が3例で、咽頭ぬぐい液からの検出が3例、血液からの検出が1例であった。

○感染性胃腸炎(ロタウイルス)：高鍋保健所から1例報告があった。0～4歳で、病原体の群別不明。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	インフルエンザ(15.4)、伝染性紅斑(2.1)
都城	インフルエンザ(29.3)
延岡	インフルエンザ(19.3)、流行性耳下腺炎(9.5)
日南	インフルエンザ(17.2)、感染性胃腸炎(24.0)
小林	インフルエンザ(29.8)、流行性耳下腺炎(8.3)
高鍋	インフルエンザ(11.3)
高千穂	なし
日向	インフルエンザ(20.7)、流行性耳下腺炎(6.3)
中央	なし

* 流行警報レベル開始基準値 *

・感染性胃腸炎(20.0)

・伝染性紅斑(2.0)

・流行性耳下腺炎(6.0)

* 流行注意報レベル基準値 *

・インフルエンザ(10.0)

□ 病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成28年2月1日までに検出）

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状等	材料	検出日
ライノウイルス	0～4歳	男	2015.12.13	クループ症候群、38.4℃上気道炎 四肢振戦、強直、眼振、光過敏	咽頭ぬぐい液	2016.01.20
インフルエンザAH1pdm09型	5～9歳	男	2016.01.18	インフルエンザA型、39.9℃	咽頭ぬぐい液	2016.01.21
インフルエンザAH1pdm09型	5～9歳	男	2016.01.22	インフルエンザA型、39.8℃ 胃腸炎(水様便、腹痛)	鼻汁	2016.01.29
インフルエンザAH3型	0～4歳	男	2016.01.20	インフルエンザA型、39℃ 上気道炎	鼻汁	2016.01.22
インフルエンザB型 (ビクトリア系統)	10歳代	男	2016.01.19	インフルエンザB型、40℃ 鼻水、咳	咽頭ぬぐい液	2016.01.21
インフルエンザB型 (ビクトリア系統)	5～9歳	男	2016.01.19	インフルエンザB型、39.5℃ 上気道炎(扁桃炎)	鼻汁	2016.01.21
インフルエンザB型 (ビクトリア系統)	5～9歳	男	2016.01.20	インフルエンザB型、39.5℃ 鼻水	咽頭ぬぐい液	2016.01.21
インフルエンザB型 (ビクトリア系統)	10歳代	女	2016.01.20	インフルエンザB型、38.4℃ 上気道炎、咳	咽頭ぬぐい液	2016.01.22
インフルエンザB型 (ビクトリア系統)	10歳代	男	2016.01.21	インフルエンザ、37.4℃ 鼻水、咳	鼻汁	2016.01.22
インフルエンザB型 (ビクトリア系統)	10歳代	男	2016.01.21	インフルエンザB型、38.4℃ 上気道炎	咽頭ぬぐい液	2016.01.29
インフルエンザB型 (山形系統)	10歳代	男	2016.01.26	インフルエンザB型、発熱	鼻汁	2016.01.29

○インフルエンザと診断された10名の咽頭ぬぐい液もしくは鼻汁からインフルエンザウイルスを検出した。型別にみると、B型(ビクトリア系統)が6名と最も多く、次いでAH1pdm09型2名、AH3型とB型(山形系統)が1名ずつであった。全国の検出数をみると、AH1pdm型199件で最も多く、次いでB型(ビクトリア系統)58件、B型(山形系統)27件、AH3型24件の順であった。今シーズンは、AH1pdm09型の流行と平行してB型の流行もみられることから、今後の発生動向に注視する必要がある。

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4歳	女	2016.1.8	発熱、気管支炎、咳嗽	咽頭ぬぐい液	2016.1.15
EPEC(OUt:HUT)	10歳代	男	2016.1.14	発熱(39.2℃)、 胃腸炎(出血性下痢、腹痛)	便	2016.1.25
<i>Salmonella</i> Manhattan(O8(O6):d:1,5)	—	女	2016.1.20	—	便	2016.1.20

🇯🇵 全国 2016 年第 3 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 3 週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	288 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	9 例	腸チフス	1 例		
4類感染症	E 型肝炎	5 例	A 型肝炎	3 例	重症熱性血小板減少症候群	1 例
	つつが虫病	4 例	デング熱	2 例	レジオネラ症	22 例
	レプトスピラ症	1 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	18 例	ウイルス性肝炎	3 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	17 例
	急性脳炎	11 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	6 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8 例
	後天性免疫不全症候群	13 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	34 例	水痘 (入院例)	4 例	梅毒	41 例
	播種性クリプトコックス症	1 例	風しん	1 例		

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 136%と増加した。前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザと A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患は流行性耳下腺炎であった。

インフルエンザの報告数は 52,226 人(10.6)で前週比 257%と増加し、流行注意報基準値(10.0)を上まわった。新潟県(29.3)、沖縄県(18.2)、青森県(16.5)からの報告が多く、年齢別では、5 歳未満が 20%、5-9 歳が 36%、10-14 歳が 15%、15-19 歳が 4%、20-59 歳が 21%、60 歳以上が 4%であった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 9,552 人(3.0)で前週比 129%と増加した。山形県(8.5)、鳥取県(7.4)、福井県(6.0)からの報告が多く、年齢別では、4~6 歳が全体の約 4 割を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第4週(1月25日～1月31日)

疾病名		第3週	第4週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	461	1121	247	293	135	86	149	68	15	124	4
	定点あたり	7.81	19.00	15.44	29.30	19.29	17.20	29.80	11.33	7.50	20.67	2.00
RSウイルス 感染症	報告数	68	52	7	8	11	10	2	4	1	9	
	定点あたり	1.89	1.44	0.70	1.33	2.75	3.33	0.67	1.00	1.00	2.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	29	32	1	10	8	8		1		2	2
	定点あたり	0.81	0.89	0.10	1.67	2.00	2.67	0.00	0.25	0.00	0.50	2.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	103	99	29	14	8	11	1	7	1	28	
	定点あたり	2.86	2.75	2.90	2.33	2.00	3.67	0.33	1.75	1.00	7.00	0.00
感染性胃腸炎	報告数	367	399	98	69	26	72	39	53	5	33	4
	定点あたり	10.19	11.08	9.80	11.50	6.50	24.00	13.00	13.25	5.00	8.25	4.00
水痘	報告数	12	5	3		1						1
	定点あたり	0.33	0.14	0.30	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
手足口病	報告数	1	4	2		2						
	定点あたり	0.03	0.11	0.20	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	47	41	21	7	1		5	6		1	
	定点あたり	1.31	1.14	2.10	1.17	0.25	0.00	1.67	1.50	0.00	0.25	0.00
突発性発しん	報告数	39	31	11	2	7	4	1	1		4	1
	定点あたり	1.08	0.86	1.10	0.33	1.75	1.33	0.33	0.25	0.00	1.00	1.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	2	2		1	1						
	定点あたり	0.06	0.06	0.00	0.17	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	92	96	2	5	38		25	1		25	
	定点あたり	2.56	2.67	0.20	0.83	9.50	0.00	8.33	0.25	0.00	6.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	26	30	18	12							
	定点あたり	4.33	5.00	6.00	6.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1		1							
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	3	4	3			1					
	定点あたり	0.43	0.57	3.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数		1						1			
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～4週)

2類感染症	結核	21例(4)			
4類感染症	A型肝炎	1例	つつが虫病	3例	
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1例	クロイツフェルト・ヤコブ病 1例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例	後天性免疫不全症候群	2例(1)	侵襲性肺炎球菌感染症 1例

()内は今週届出分、再掲